

旧八幡市民会館再生計画

北九州 こども・まち ミュージアム

-HAWADO-

(基本構想)

環境デザイン研究所

+

九州工業大学建築デザイン研究室

目次

■再生の背景	1
■再生の基本コンセプト	1
■提案：北九州 こども・まち ミュージアム -HAWADO-	3
■計画概要	
A. 北九州こどもはつらつ元気館	4
B. 北九州わくわくミュージアム (北九州都市建築博物館)	8
C. 北九州こどものときどきまちづくり	10
■事業の特徴：工事費概要	11

■ 再生の背景

1958年八幡市政40周年を記念して建設された八幡市民会館は、物理的な老朽化（耐震性能不足、ランニングコスト負担等）と社会機能的老朽化（類似機能施設の増加・重複等）により2016年4月から利用が停止されている。

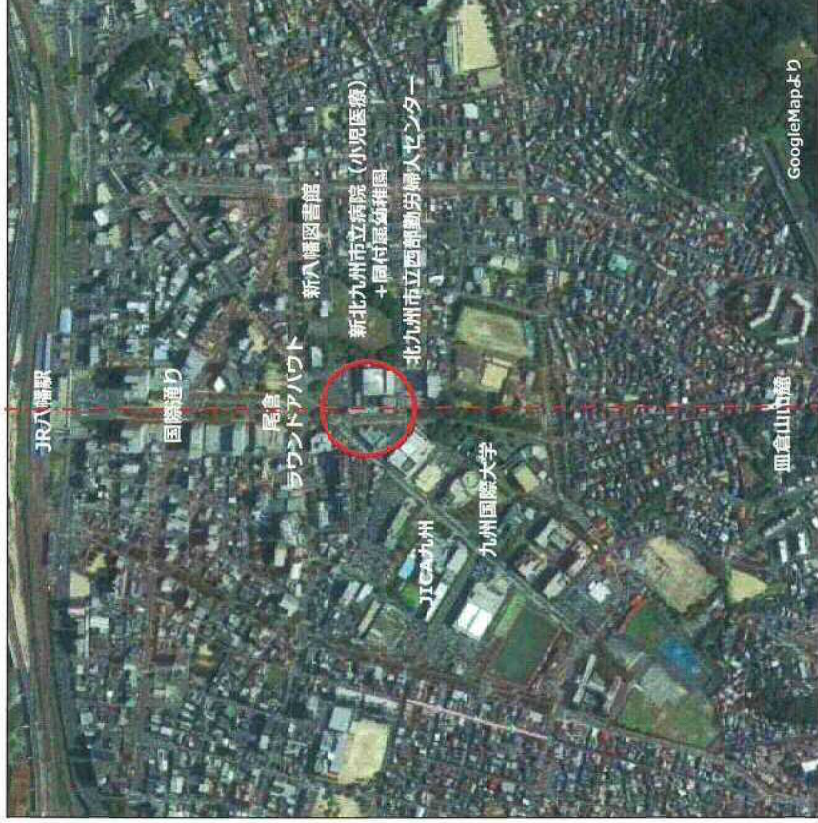
しかしながら、本施設は戦後の日本の復興、高度経済成長を鉄と石炭で支えてきた北九州市にとっては、象徴的な都市発展史上の重要な拠点のひとつであり、その都市計画軸（洞海湾→八幡製鉄→八幡駅前通→皿倉山）の上のランドマークであり、北九州市民にとっても、戦後の様々な活動が行われた近代の原風景とも入れる大切な場所である。

また、本施設は建築設計が北九州市や八幡に縁の深い、村野藤吾の初期の優れた建築作品であることから、質の高い建築文化財として各関連団体から多くの高い評価を受けており（1960年第1回BCS建設業協会賞、2014年には、近代建築と環境形成の記録調査および保存のための国際組織DOCOMOMO・JAPANによって日本の重要な建築作品としての選定を受けている）、建物自体が北九州市と市民にとって重要な地域資源となっている。

■ 再生の基本コンセプト

本再生計画では前述した既存施設のポテンシャル、特徴、周辺施設との連携を視野に入れながら具体的には、隣地の新北九州市立八幡病院（救急小児医療拠点）、新八幡図書館、近接する九州国際大学等の高等教育機関、JICA九州 国際協力機構九州国際センター等のインバウンドにも大きな関連のある国際組織、北九州市立西部勤労婦人センター、広い駐車スペース、八幡駅から良好なアクセスとケヤキ並木の歩行者空間、都市軸正面のシンボル性、日本でも最大規模となる尾倉ロータリー（尾倉ラウンドアバウト）等を考慮して、主目的を、北九州市の未来の持続可能な発展を目指す再生とし、そのための**次世代育成の地域資源の活用拠点**として整備することを提案する。

そして、施設機能は『**どもはつらつ元氣館**』、**B『わくわくミュージアム』**、**C『どものどきまちづくり』**の3本立てとし、**北九州 ども・まち ミュージアム-HAWADO-**（**ハワード：はつらつ、わくわく、どものどきの3頭文字**）という名称を提案する。段階的整備できるシステムとすることが特徴となっている。すなわち、当初はイベントで活動を開始して、仮設的な整備とし、運営の持続可能性が高いものだけ、段階的に常設化していく。



都市計画軸と駅地周辺都市施設概略

GoogleMapより

■ 提案：北九州 こども・まち ミュージアム -HAWADO-

- A 北九州こどもはつらつ元気館
- B 北九州わくわくミュージアム (北九州都市建築(博物館))
- C 北九州こどものときまぢづくり

